



議 長	副議長	局 長	次 長	主 幹	係 長	係 員

## 行政視察報告書

令和 8 年 2 月 1 0 日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 創政みらい 会長 議員 天野 喜一郎 ㊟ 議員 大月 隆司 ㊟  
 議員 仁科 文秀 ㊟ 議員 桑田 昌哲 ㊟  
 議員 山下 恭司 ㊟ 議員 宮崎 秀夫 ㊟  
 議員 村上 太志 ㊟ 議員 ㊟

下記のとおり行政視察を実施したので、その結果を報告します。

### 記

#### 【1】 沖縄県 八重瀬町役場

住 所	沖縄県島尻郡八重瀬町東風平1188
電 話	098-998-2200
視察案件	臭気対策について意見交換 八重瀬堆肥センター現地視察
期 日	令和 8 年 2 月 4 日 (水) 15時00分から17時00分
応 対 者	農政水産課 課長 屋宜 睦夫 氏 八重瀬堆肥センター代表取締役 新里 菊也 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	八重瀬堆肥センター・八重瀬町役場
	<b>【視察目的】</b> ○畜産臭気問題の課題を持つ自治体同志の意見交換 ○堆肥センター現地視察
概 要	○八重瀬町を含む沖縄県南部では酪農をはじめとした畜産業が盛んな地域であるとともに、サトウキビ、野菜(ピーマン等)、花(キク)等の耕種農業も盛んな地域である。そのため、地域内での乳用牛排せつ物の循環利用が期待される場所であるが、悪臭等の課題により、利用が進んでいない状況の為、本センターで、地域内の乳用牛排せつ物等をメタン発酵させ、メタン及びバイオ液肥を製造。 ○メタンはバイオガス発電に利用し、バイオ液肥は耕種農業での肥料として

活用している。乳用牛排せつ物は、メタン発酵させバイオ液肥とすることで、悪臭が軽減するため、地域内での乳用牛排せつ物の循環利用に貢献。

○現在、バイオ液肥は、地域内のサトウキビ・牧草生産者が利用しているが、利用時期が限られるため、野菜(ピーマン等)や花(キク)等での活用拡大を進めている。

#### 成果目標

令和6年までに、サトウキビ・牧草以外の耕種農家におけるバイオ液肥の年間散布量を令和3年度実績に加え、新たに7.5ha以上拡大

#### 取り組みのポイント

- ①調達：乳用牛排せつ物を活用したバイオガス発電  
(メタン発酵で生成されるメタンを原料に発電)
- ②生産：乳用牛排せつ物のメタン発酵させた副産物をバイオ液肥として農作物へ散布

○八重瀬町の畜産業(令和8年1月現在)

畜種	農家数	飼養頭数
肉用牛	31戸	417頭
乳用牛	9戸	530頭
養豚	7戸	27,205頭
養鶏	6戸	72,346頭

取組み内容・活用補助金などは別紙資料確認

#### 【所感】

○環境省の「地域循環型バイオマスシステム構築モデル事業」を活用し建設・2年間の実証実験を経た内容。牛の頭数が笠岡とは違うが、笠岡も各事業者が意欲的にこのような事業を検討・実施していければ様々な状況で、臭いに対する環境が変わってくるのではないかと考える。

事業者がどの程度地域の人を考えて努力をするかなのではないかと。ただ、堆肥を作る行為をすればいいだけでなく、酪農家のみでの運営では厳しいのが現状で、畜産事業と堆肥事業をわけての事業でないとい時間的・人的での余裕が発生しない。堆肥の完熟をある程度でなくしっかりと乾燥させる、堆肥への取組み時間をどれだけ実施できるかなど個人的な所もあるので、臭気への取組みを自覚し対応していただきたい。堆肥を畑に撒いているが結果的に捨てているだけの状況で撒いた後の臭いまで確認すべきである。

ただ、臭気ゼロではない、臭気への取組みをどれだけアピールするのか、どのような場所なのか地域の人に理解されているかである。

今回の視察でも臭気はあるが笠岡干拓の臭気とは臭いの強さが違う。頭数の違いもあるがしっかりと事業者が取り組んでいる。役場との連携を図り改善をしようとする姿勢は強いものであった。

バイオガスプラントの搾りかすをチップ代わりに堆肥に混ぜて肥料化の促進をし資材や経費削減を企業として努力している。

	<p>液肥に対しても浸透試験など様々な試験をして問題が無いかなど考えた内容となっている。</p> <p>笠岡市としても畜産業者全体と協力し試験対応など取組みが必要であると考ええる。</p> <p>○施設増強なども事業者であるバイオファームが町と連携を市対応している。笠岡市としても畜産業者と連携を今後も強化し対応するべきである。補助金活用を図る上で、役所から農家・畜産業者への情報提供をするべき。事業者の感覚を改善するべきものに全畜産業者が認識していただけるよう啓発は続けるべきである。</p> <p>○今回の堆肥センターの取組は、地域とのきずなや業者の想いが強い、このような思いを、笠岡市内の事業者と市が協力するなど参考にできる点は多い。</p>
	<p>視察資料 視察状況写真 名刺</p>

【2】 沖縄県 金武町役場

住所	沖縄県国頭郡金武町字金武1番地
電話	098-968-2111
視察案件	新庁舎建替え計画を策定し現在進行中金武町役場経緯
期 日	令和8年2月5日(木) 10時00分から12時00分
応 対 者	複合庁舎整備推進課 課長 安富祖 勸氏 係長 吉田 革氏 金武町 町長 仲間 一 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	金武町役場
概 要	<p>【視察目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現状までの建替えに対しての内容について</li> <li>○現在立替え金額上昇の中での方向性と住民からの意見</li> <li>○複合庁舎とする利点と補助金の扱い、民間企業とのやり方検討</li> </ul>
概 要	<p>国や県の事務が市町村に移譲されたことによる業務量の増加により、庁舎が狭隘になり、教育委員会・保健福祉課・こども支援課・住民生活課・上下水道課の一部機能が本庁舎から分離しました。機能の分散により、町民への行政サービスに不便をきたしていたことから、庁舎建設の必要性は認識されていたものの、事業実施には多額の財源が必要となるために事業の推進が困難な状況になった。</p> <p>平成30年(2018年)度に金武町から内閣官房長官に対し、複合庁舎建設の費用負担等を要請し、防衛省から複合庁舎の建設に活用できる再編推進事業補助金が提示されたことから、複合庁舎建設の検討を開始した。</p> <p>財政的な課題、地域的な課題がある中、地域住民から建設場所や現在ある、保険福祉センター取壊しなどへの町民苦情がある中、意見交換を繰り返し聞きながら反対意見があるものの町決定を進める。</p>

	<p><b>【所感】</b></p> <p>○役所の分散化がネックであり、その解消のために一体化の町役場を建設、手狭な事市民から施設に関しての苦情があり新庁舎の要望も高まり今回の建設計画に繋がる。今後の災害を考え防災拠点は必須の条件となる。町民サービス・行政執行を迅速にできることを考慮すれば実行して良いものであると言える。ただ、建設規模成り予算に対しての理解がどの様になるかである。</p> <p>金武町の予算は人口約11,000人に対し歳入120億であり財政力0.38、実質公債費比率4.4、自主財源比率39.6など健全である。全体的には複合防災拠点として町民のサービスや憩いの場・防災拠点を集約することはとても良い事である。</p> <p>また、中高生が町役場屋外広場に集まり楽しく時間を過ごしている。金武町だけでなく八重瀬にしても、町役場と町民・学生の距離が近い事が伺える。このような関係であれば、コミュニティとしてのまちの機能が活用していくのであろう。笠岡市としても市民だけでなく、学生が和やかに利用できる市役所を検討するべきであると感じた。</p> <p>○分散をしているものに対し市がどの様にするのか。分散の利点はあるが、小さい市として一体化はしなければならないと感じる。</p> <p>また、建設費としての補助金をどうすべきか、庁舎に対しては無いと言われていた。複合防災施設など補助対象になり得る案件の情報の入手と活用を進めるべき。</p> <p>市民からの反対活動など、どの地域でもあるものであるが説明責任を果たし進めるべきもの、反対をする方は何をしても、どんなことを言っても反対をする人。その市にとって何を大切に、何を守るかを強調し進めていくべきである。</p> <p>別件ではあるが、この度の金武町と矢掛町はフレンドタウンシップ協定を調印されていた。同じ岡山で近隣都市だからという事で町長面会もさせていただきました。広域化市町での協力など今後も進めていくべきであると感じた。</p>
	<p>視察資料 視察状況写真</p>

**【3】 沖縄県 道の駅ぎのぞ**

住所	沖縄県国頭郡宜野座村字漢那 1633
電話	098-968-8787
視察案件	リニューアル後観光集客と運営と地域拠点の在り方
期 日	令和8年2月5日(木) 13時30分から15時00分
応 対 者	一般社団法人 宜野座村観光協会 事務局次長 石川 秀友 氏
視察状況	別紙写真のとおり

訪問施設	沖縄 道の駅ぎのぞ
	<p>【視察目的】</p> <p>○2018(平成 30)年 4 月にリニューアルオープン          高速道路の通過点で道の駅「ぎのぞ」。          観光集客と運営と地域拠点の在り方</p>
概要	<p>○宜野座村の観光拠点として 2018(平成 30)年 4 月にリニューアルオープンした道の駅。</p> <p>国道 329 号、海を眺めながらのドライブの途中に存在する道の駅。マンゴーやスナックパインなどのフルーツやじゃがいもが特産品。敷地内はリニューアル建設をした 3 階建ての拠点施設、その隣に以前からある、産直施設やフードコートが並ぶ。観光情報センターや産直施設はもちろんのこと、カフェ、子どもの遊べる大型遊具や水遊び広場もあり、週末には多くの人々で賑わう。</p> <p>こどもが思いっきり遊べる場所、やんばるの入り口、北部観光情報の入手が可能、地元アスリートの展示や沖縄ならではのプロ野球(阪神タイガース)関連の展示もしている。様々な情報発信拠点として活用されている。</p> <p>道の駅を活用し 27 年～30 年度で拡張をした。(村の持ち出しは 2 割) 拡張したことで来場者が 66 万人⇒Max100 万人となる。</p> <p>2 階飲食スペースは本来 3 店舗入れるが現在開設時から 1 店舗が全スペースに入っている。(17 店舗の公募から選定し 1 店舗)</p> <p>水場(プール足のみ)の設置で夏場には 320 人/時間来た時もある。</p> <p>人が集う場所となり、夏場ではイベントをうつことをしない、別の季節で道の駅お祭りを 2 回/年で、夏以外での集客を実施している。</p> <p>敷地内はリニューアル建設をした 3 階建ての拠点施設は観光協会指定管理          既存の産地施設は『未来ぎのぞ』で管理</p> <p>○課題として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅観光拠点施設から別施設へ繋がる事が現状不足している。          (スパ施設や鍾乳洞へ誘導が出来ていない)</li> <li>・「ぎ～のくんランド」内の水遊び場(プール足のみ)の設置をしたが水質管理が難しく、ろ過装置の必要性に迫られる(ろ過装置が 1 千万程度必要)</li> <li>・飲食スペースが少ない⇒今後飲食スペースの拡張を実施予定          (2 年後に実施予定)</li> <li>・遊具に関して利用客は多くよいが、管理(点検・補修)費が高い</li> </ul>
	<p>【所感】</p> <p>○リニューアルとしてはコンセプトを活かし全体的には成功をしている。          バランスが取れた運営をどう継続していくかがキーポイントである。          村の税収を考えながら観光施設としての取組みはこれからも力を入れていくのだろう。</p>

	<p>観光施設への過剰な投資にならない様に、笠岡道の駅は税込・収益を考え施設の不足分を拡張した上で、他市内施設への誘導を今後も考えなければいけない。</p> <p>道の駅に公園遊具などの組み合わせで公園化を検討するのであれば、その後のメンテ費・管理費などの試算も必要であり、お金を必要以上かけない、メンテ費などのことを考えながらリニューアルに向けた計画をしっかりと進めるべきである。</p> <p>来場者増加で食事をするスペースが必要なのは理解する、別で道の駅内での人の誘導も検討するべき項目である。</p> <p>施設メンテだけでも年間補修費は出るが、全体的な補修は出来ず施設状況の点検後補修場所を決定している。費用も膨大である。</p> <p>笠岡市も実績だけでなく、場所とものの組み合わせを検討しスペースと人の移動・誘導の管理も必要である。</p> <p>道の駅ぎのぞでは水場が反響したと言われるが、水に対応した経費、維持管理費は莫大である。うまい利活用を検討していきたい。笠岡ではドッグランが評判にもなっている。管理費低減なども工夫はできると感じる。</p> <p>今の日本どこでもであろう、特に夏場での陰の確保、憩いの場、道の駅で熱中症が発生などは風評被害にもなる、基本は個人管理ではあるが、これからは、このような場所でも、来場者の健康を気にすることは必須である。</p> <p>笠岡市としても指定管理をしながら事業者も協力をお願いして観光のボトムアップが図れる状況の改善に努めるべきである。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【4】 沖縄県 糸満平和祈念公園・資料館、ひめゆりの塔

住 所	沖縄県糸満市字摩文仁 444 番地 沖縄県糸満市字伊原 671-1
電 話	098-997-2765 098-997-2100
視察案件	平和学習 糸満平和祈念公園とひめゆりの塔
期 日	令和8年2月6日(金) 10時00分 から14時20分
応 対 者	班長 與儀 桂 氏 学芸班長 中山 晋 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	糸満平和祈念公園 ひめゆりの塔
	<p>【視察目的】</p> <p>○第二次世界大戦に際して、沖縄本土における、島民の感情を体感し、戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さを再度考える。</p> <p>○平和祈念資料館にて、現地の人の声を聞き自分たちの教育内容と乖離する所を勉強する。</p>

概 要

○1945年3月末、史上まれにみる激烈な戦火がこの島々に襲ってきました。90日におよぶ鉄の暴風は、島々の山容を変え、文化遺産のほとんどを破壊し、20数万の尊い人命を奪い去りました。沖縄戦は日本に於ける唯一の県民を総動員した地上戦であり、アジア・太平洋戦争で最大規模の戦闘でありました。

沖縄戦の何よりの特徴は、軍人よりも一般住民の戦死者がはるかに上まわっていることにあり、その数は10数万におよびました。ある者は砲弾で吹き飛ばされ、ある者は追い詰められて自ら命を絶たされ、ある者は飢えとマラリアで倒れ、また、敗走する自国軍隊の犠牲にされる者もありました。沖縄県民は、想像を絶する極限状態の中で戦争の不条理と残酷さを身をもって体験した

”沖縄のこころ”とは、人間の尊厳を何よりも重く見て、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め、人間性の発露である文化をこよなく愛する心、戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、全世界の人びとに私たちのこころを訴え、もって恒久平和の樹立に寄与する

ひめゆりの塔は、1945年の沖縄戦で亡くなった沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校の生徒や教師のための慰霊碑です。沖縄戦の翌年、両校で最も多くの犠牲者を出したGamma（鍾乳洞）の上に建てられました。

沖縄戦で亡くなった沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等女学校の生徒と教師

ひめゆり学徒隊……………136人

ひめゆり学徒隊以外の在校生・教師……91人

【所感】

○会派での平和学習、戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さが身をもって、ひしひしと伝わってくる。特に、今回の沖縄県平和祈念資料館(糸満市)での現地学芸班長 中山さまの話では、沖縄県人が日本軍から受けた理不尽な仕打ち(戦争中方言でスパイ容疑を掛けられるなど)がとても心に残った。また、この戦争後孤児になられた方にとって思いもよらない戸籍が無くなる、苗字を変えるなど沖縄ならではの課題が発生するなど現地の方でなければ知りえない内容まで聞かせていただいた。

戦争に対する想いは少しでも風化させてはいけない、岡山県や笠岡市でも児童や生徒、若者にぜひ行ってもらいたい場所である。

(全国小中高校生の来場者を比較しても岡山の来場数は多い方であった)

○沖縄戦の語り人が減少している。二度と繰り返してはいけない戦争・激戦の沖縄戦、島民の苦しみや生々しい戦争中の現実を子ども・孫世代に伝えたくないと言うことで戦争体験者が口を閉ざして後世に語り継いでいかなかったのが一つの要因である。

	<p>現在は、語り手を作り少しずつでも語り続ける活動は必要である。</p> <p>その時代での人の生き方、変えられる人生の有難さを考え今の時代でなにが出来るか、なにをしなければならないか。</p> <p>戦争はしてはいけない、ただ、昨今の世界情勢を考えると自衛隊等の抑止力も必要と感じる。</p> <p>防御だけでなく、けん制だけでなく、平和の国や世界をどう作っていかなければならないかを考えさせられるものであった。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺